

平成26年度 第2回中小企業振興会議 農業振興検討部会 議事録

日 時	平成27年1月30日（金）午後3時20分から午後4時50分まで
場 所	クリエイターズプラザ3階 研修室A
出席者	○ 農業振興検討部会委員 石井委員、上田委員、高田委員、多田委員、出口委員、福田委員、古川委員、松浦委員、坂上委員、米谷委員 ○ 事務局 農政課 紀先課長、田中主査
案 件	1. 中小企業振興会議 農業振興部会の検討スケジュールについて 2. 農業振興施策について 3. その他
議事要旨	<p>【開会】</p> <p>【事務局から案件1. 2. について、別紙、資料1、資料2を説明】 ・終了予定時刻17時 ICレコーダー録音の承認 配布資料の確認。</p> <p>【質疑】 (委員) 事務局の方で前回議論の中で、本市が取組んでいる事業、その中で今後要請が出てくるであろう事業、発展していく農政の事業というところで、他の自治体の施策の状況を事務局に依頼をして資料1を作っていただいて、資料2は本市との関わりをお話いただいたところです。 今日の資料の中で、「これからの事業・施策の展望を」という資料を準備されているが、もう一度整理すると、大きくは農業振興に関わっての事業としては、 A 貸農園、市民農園型事業 B 地産地消推進型事業 C 農地保全型事業、休耕地対策型事業 D 援農型事業 E 体験農業型事業 と括られている中で、其々の問題点なり、今後どういうところが必要になってくるかということ、少し整理をした資料もありますので、委員の方々にご議論いただけたらと思います。切り回しとしては、自治体の取組み、事例に対する質問でも構わないし意見でも構わないと思いますので、よろしくをお願いします。 (委員) 東大阪でもそうですが、全体的に農地あるいは農業をやめる方、非常に多い。農地も年々減っている。柏原の方では年々1町2町単位で減っている。農地がなくなっている。遊ばしてしまっているのが現状です。東大阪も多分同じことだと思う、どんどん減っていつている。やはり、休耕地・遊休農地の解消が一番求められるのではないかなと思います。その中で、定年帰農者、定年になられてリタイヤされても元気な方は沢山おられるんで、そういう方を市が募集するか、あるいは何かの形で遊休農地を利用してもらって、大々的に取組んでいく必要がある。八尾の方で農地バンク制度あるが殆ど機能していないと思う。農地をどうにかして欲しいという人はいても、借りますよという人は殆どいない。それが現状。それを解消しようと思えば、定年帰農者を募集するのか、あるいは農業意欲のある方、若い方を募集するのか。手当の問題とか、色々な問題は当然出てくるが、まず農地を減らさない、同時に食育の問題もある。学校園でもっと野菜を使ってもらおうとか、何か方法があればいいと思うが (委員) 農地バンクというのはいわゆる使わない農地、作っていない農地で、八尾市の場合は窓口はどこですか 【事務局】 農業委員会・市の方でやっていると思う。ただ、農地は誰でも借りれるのではなくて、認定農業者とか、ちゃんと農業をしますよという人でないと、昔、借りてそこに産廃を埋めるという問題が発生したので貸し借りは厳しくはなっている。その中で一定緩和しようということで、認定を受けた人とマッチングをするというための農地バンク。マッチング制度なんですけれども現状、借り手がいない。というのも耕作して欲しい農地というのは優良農地ではない所が多い。条件的に厳しい。その辺のミスマッチはやはりおこりやすい部分ではあるかな、ということなんです。 (委員) 農地バンクやっているのは八尾市以外には 【事務局】 制度としてはある。恐らく、府のみどり公社が関わるのかなと思う。岸和田とか泉州の方にいけばマッチングは一応しているの、制度的にはあるけども。という部分です (委員) 今、まさに的確なというか、本当にこれから取組まないといけないご提言をいただいたが、それに関わってご発言を (委員) 毎回言わせていただいておりますが、私は菜の花の油を採りたいというのがあるんですが、昨年も農政課にお願いして、10月の種蒔きまでには、とお願ひしたがダメだったんですが、消費者の私たちの立場からすると、畑を借りて自給自足を私たちグループで出来たらいいね。市でやっている老人大学「悠悠塾」のメンバーの方もいて、食の混入とか色々な問題があって、怖いという部分があるので、出来ればわざわざ自分達が田舎に住み着いて農業するのではなく、東大阪のグループで出来て借りられるのであればという様なことを考えていた。八尾は近いですけど---</p>

(委員) 貸したいというよりも、農地を何とか維持したいという方が多い。民で貸したりできるかという、殆ど嫌がれる。農家の人には獲られるというイメージが物凄く強い。だから、農協や役所を経由して耕作をやっつてよ、ということになる

(委員) ミスマッチを防ぐには何か制度的なものの勿論いるとは思いますが、どこがコーディネートするのかという所かと思う。ニーズとそれに答えるものが合わないと、貸したはいいけども全然違う使われ方をしてしまうと、使わないでくれということになる

(委員) 小さいところだと、300坪も要らない、自分で耕せる程度というのでは話にならない。だから1筆程度300~600坪単位の貸し借りならまだ可能性ある。勿論、場所や水の確保とか色々な問題はあるんですけども。

市で6次産業で加工品とかは、どういう状況ですか

【事務局】加工品は「ふれんちん」とやっている様な程度。中々業者さんも、いわゆる地産地消を押し出していこうという業者は少ない。地場産を使いたいという業者さんはいるが、その違いで「地場産のものはどこで売っているのか教えて欲しい、買いに行きますよ」という業者・レストランのところとはお付き合いさせてもらっている。「鳴門屋パン」とか花園にある「ふれんちん(フランスレストラン)」とかと一緒にやらしてもらっているが、地元のものを使いたい、だけど持って来てくれたら使います、という業者は山の様にあるが、持って行ったところで地産地消というところを中々伝えてもらえない可能性が非常に高いので、そういうところとはお付き合いしにくいなと、いう様な話になっており、少数精鋭の形での6次産業というか実需者を介して色々な製品を作ってPRをしていくという形での活動を今しているところです。今度、年2回の大きい農業関係の全国的なピーツーピーのマッチングのイベントがある。夏は幕張メッセでやり、2月19・20日にはATCで北海道から沖縄まで全国の農業者が加工品とか農産物を寄って行うマッチングがあるが、今回初めて東大阪としてもできる。その時「ふれんちん」で作ってもらった地場産の野菜を使った加工品を持って行ってPRを予定している

(委員) 品目としては特定な農産物ということになるが、結構広いんですか

【事務局】シェフ自体が昔は自分がこういうモノが欲しいという様に農家をお願いしていたが、今は、季節のモノ、東大阪には中々ハウスがないので、季節に左右される栽培体系なので、その時にあるモノで何かを作ろうと、限定品にはなるが、あと1年中あるといたら軟弱野菜で小松菜・ほうれん草・春菊といった通年使えるようなもの。今、小松菜のシフォンケーキを作ってるんですが、こういうのを旗艦にしていこうという話で今動いています。鳴門屋パンは冬の野菜のほうれん草パンを冬の間の12月~5月限定で販売している。今年で3~4年目になるが消費者ニーズもあって、続いているところです

(委員) 地場産というのは、地場産であればいいのか、あるいは特定の色とか、よそと違う味とかを求められたりはしないんですか、レストラン側からは

【事務局】レストラン側からは東大阪のブランドはエコ農産物・エコ野菜だということですので、どんなモノでも農薬と化学肥料は少なくして作りましょう、というのを目標にやっていて、そういうモノが非常に多い。その中で地元のエコ農産物を使って料理をするということですので、其々の農家によってほうれん草とか春菊の味が違うので、そういうものに合せて料理をされるという形ですから、特にこんなモノが欲しいとか、こんな味付けにしてくれという要望はない

(委員) 例えばそういうニーズがあった時に農家の方から人出が足りないという話はあるんですか

【事務局】実際に5月位になってくるとエンドウ豆が最盛期になりますが、農家の一番シンドイのは収穫・荷づくりが一番労力的にもシンドイ作業になる。その部分を何とかしてくれというのは今のところはないが、沢山ななってシンドイよという話もあるので、それに関しては今、中河内とグリーン大阪の直売所でファームマイルージ運動ということで、エコ農産物48~50買われた方に感謝状をお渡しするという運動をしているんですが、その感謝状を集められた方の中で、収穫体験というか、畑で実際に自分が採ったエンドウ豆が買えるよという様な消費者特典の様な形をこの5月に、ある1軒の農家さんに話をしている、ふれあいの一貫としてやっつていこうと話していますので、その辺で消費者に実際に収穫して喜んでもらって農家にも実入りがあるよということをやろうかなという風には思っている

(委員) 援農というところで委員から毎年聞かせてもらっている、いわゆる消費者の方が自給自足という、作ったモノを消費するというニーズと、農業に関わりたいニーズは違うと思う。それを切り分けて例えばエンドウ豆の収穫なら、この時期に手助けがあったらいいよという具体的な見極めをして、それに対して具体的な研修をしてもらって、今言われた、消費者でそれだけポイントを集められた方というのは、それだけ関心があると言えると思うので、そこから、その方が求めるモノに近づける様な制度って出来ないのかなと思う。研修制度なり、こういう人がいるよという、人材バンクなるものが出来ないのかなと思う。

【事務局】以前、大阪府にいた時に、柏原とか太子町、羽曳野とかのブドウ農家のところで援農ボランティアということで実際に研修を1年間府の普及員が教えてブドウの栽培体験をしてもらって、その後ヤル気のある方は地元に入ってもらうという事を実際やった。そのマッチングというのが非常に難しい。その理由は何かというとはやはり、ボランティアの方なので意識のレベルが、私はこれだけしたいという人もいれば、全部ブドウがしたいという方もいらっしゃる。このマッチングのコーディネートが無茶苦茶ムズカシイ。平成13~14年頃からスタートして、今で十数年経っているが、実際どれ位ボランティアの方がブドウ園を守っているかという、20~30haもいかに、2ha位守るレベルにしかならない。それは何故かという農家とボランティアの間の意識の乖離がもの凄く大きいので、農家はこれして欲しいが、もの凄く意識のあるボランティアはここまでやりたいということで、こじれてしまって来年からはもういいよという話になったりしやすいところが非常にある。今言った収穫の話に関しては直売所に来られる、要するに地場産のものを買いたいというニーズ

のある方、その方たちのニーズというのは安心出来る物と新鮮でおいしいものを食べたいというニーズだけなんです。そのニーズがあるので当然自分で収穫したものはおいしいし、安心も出来るというニーズも満たせる。今エンドウ豆で、試験的にというのも栽培の一番最後、畑に入ってから後は倒すだけですという、直前のところで入っていただく形にしようと思う。その理由はやはり、色々な人が入られますので、畑を踏み荒らされたり、何をされてもいいよという状況でないと、農家もイエスとは言わないので、その辺が非常に研修制度みたいなモノをやるのは可能なんです、実際に小学生の「ザ・米」という体験事業とか、「いも」に関して体験事業やっているが、そこの大前提は畑が荒らされてもいいよという前提であるのが大事なところで、その辺が農家さんにして知らない人に入られるのは嫌や、という所は結構ある。出来るんだけど、その後が中々難しい、実際に稼働するのかどうか、というところが今までの経験上中々マッチングしにくいという部分は援農に関してはあるということです。

(委員) エコ農産物とよく言うが、消費者にとってエコというのは分かっておられるのか

【事務局】 アンケートを奈良女子大の方がずっと論文書いてもらっているが、認知度は高くなってきている。

(委員) JAに小学校の父兄から電話があって「農協って安全安心で、うたっているが何をもち安全安心で言われるんですか」と聞かれた。内容を聞くと学校の給食に出しているA農家はどう見てもそういう栽培されていない様との指摘だった。学校給食食材提供者の名前が表に出るはずないし、一人の農家で賄えるものでもない。何をおっしゃっているのかなあ、という話だが何をもち安全安心という話で、当然農家の方が生産履歴をキチンと書いていただく、JAの場合なら指導員がいるので、全部チェックさせている。もしも間違ったら全部返すし、その野菜は一切売らない。畑はつぶさせるという基本条件がある。全部チェックするのでその辺は安全という表現はさせてもらっているという説明はしたが、学校なんかでは他の検査もある。そういうことで安全安心という表現されている。納得はされたが、エコというのは肥料の問題が多い。勿論農薬もあるが、その使用が半々という基準が国の基準だが、いい加減な所がある。その辺が我々農協にあっても疑問点ができる。エコといっても基準はあるが、どこまでの半分なのかという色々な矛盾がある。その辺が消費者の方で本当に分かっておられるのかな、もの凄く疑問になって仕方ない

【事務局】 実際にそこまで意識をもちおられる方は少ないと思う。ただ買いに来られる方でエコシールを見て、普通の農産物と違うんだという意識をもちおられる方は結構いらっしゃる。感謝状を集めておられる方にアンケートをとれば、エコ農産物は農薬が少ないとか、化学肥料がないとかのイメージをもちおられる方はかなり多いというデータは出ている。それ以外の、要するに値段を評価してスーパーより比べて安いということで買われる方は、恐らく分かっていないと思う。そうじゃなくて地場産とかに興味のある方についてはエコ農産物という、委員のおっしゃられた、そこまでのニュアンスは多分分からないにしても、農薬とかは多分少ないでしょうね、という話はニュアンスとしてはもちおられる方は多いみたいです。

(委員) 東大阪の農産物はエコ多い。南の方は結構少ない、少ない方多い。指導が悪いのか、分からない

【事務局】 一つはエコ農産物したからといって高く売れる訳じゃないというのが多い。昔、大阪泉州という農協、泉佐野・貝塚には大きい農家多いが、エコ農産物を作られてシールを貼って市場に出すと、東大阪の場合は市場は個人で出荷し、農協で出すということはないが、農協を通してエコ農産物を出したら、例えば小松菜が100円で取引されているものが、エコ農産物をつけた為に70円になったという話がおきた。市場からするとエコ農産物というのはロット数が少ない、市場とすれば非常に扱いにくい商品であり、だから値段が下がるんだという説明だった。そういう事があると農家にとっては、農薬も減らす化学肥料も減らすという事は今までの栽培と違うことをする。労力も増える、更には自分で半年に1回申請をしないといけない。労力が増えるにもかかわらず、シールについても自前で自分で貼りなさい、大阪府の補助は一切ない。エコシールを使ってもいいですよという権利が発生するだけで、それは自分で印刷しなさいとなっている。印刷に関してはいま、東大阪でエコ農産物については東大阪啓発協議会で補助しているので農家の負担は実質ゼロだが、東大阪だけで大体170~190万円位シール代にかかる。その分を農家さんが負担しないとけない、それにも関わらず値段が高く売れないということになると、中々取組みはしづらい制度。このマーケティングが大阪府に足りないという所は正直あるんですけども、その辺もあって中々進みにくいという所はあるかと思う。

(委員) エコ農産物が例えば援農することによって、手に入りますよということには中々結びつかないですか

【事務局】 援農自体は色々な問題が含まれるので

(委員) 農家の方が求められる農産物に対する思い、それに関わる労力からするとエコと援農は中々結びつきにくい

【事務局】 援農自体は主体的に動かれる消費者の方、エコ農産物というのは受動的に行動される消費者の方にとってプラスという事ですので、中々その辺が交わるメリットと申しますか、うま味みたいな所を見つけ出すのは今の所、案はもちあわせていない

(委員) 消費者の立場からすると私たちは、行政の中に入ると色々な手続きとかで難しく、農政の方が大変なのはよく分かるんですが、市場の人がやりにくいから安くしないと売れない、というやり方は消費者の立場からするとエコ農産物というのは普通のスーパーで売っている野菜よりも高いという意識はもち買っている。農家と農協、市場との関わりかも知れないが、消費者の立場からすると全然関係のない所で単価が付けられるなあと思う

【事務局】 今の市場という事を考えるとそうなる。市場というのは商品のストーリー性というのは関係ありませんので、いかに日持ちするか、いかに鮮度がいいかという所で物流をされるので正直なところ、大阪の福島とかの中央市場で聞いてもエコはプラスにはならない。農薬を使っていないとかは、今の世の中の流れになっているので、当たり前だと、農家がやって当たり前という意識が市場の方からするとある。大量に作られる場合はどうしてもロットというのが勝負になって来るので、中々市場の下に流れてくる小売店とかが意識が高くな

いと、エコ農産物を高い値段でとるということは、市場を通しての限りは難しい。普通の農産物が 100 円の場合あなたはエコ農産物を何円まで出しますか、というアンケート調査をしたんですが、平均で 125 円まで出すという答えが返ってきたので、委員がおっしゃられた様なことは、消費者心理としては正しいということですね。

(委員) そういう場合は市場を通さない方法でやらないといけないという事ですか

【事務局】有利販売をしようと思えば今までの既存のマーケットを通すということは辛いという状況ですね

(委員) だったら、直売所みたいな所を一杯なさったらいいんじゃないですか

【事務局】いいんですが、そこは経営が成り立つのか、という話がありますから、野菜って単価が安いですから

(委員) 木津川へ年間 4～5 回言って、そこで農家の方たちがやってる道の駅みたいな所があり、年々大きくなっていて赤飯から花から、米からお茶から、もの凄く種類が販売されていて皆で楽しんで行く、車のナンバーを見ても他府県が多く、わざわざ買いに来られてる様だ、栽培された方たちが当番で売られていて、会話も出来るし、お茶もいただきながら駐車場も広がっている

(委員) 奈良は同じようなもので、まほろばキッチンとかありますね

(委員) J A の直売所は時間が限られている

(委員) 出荷量が少ない関係もありますね

(委員) エコ農産物に関わっては、これまでの実態なり、議論なりの中で一定進んできているのかなと思う。今度、振興会議の方で進捗状況の報告をするので、いわゆる事業化がこれから特に休耕地対策みたいな所がポイントというお話いただいているが、休耕地対策なり、援農事業に関わってのご意見をいただけたらと思います。農家と直接関わっておられる農協の立場からご意見いただけましたら

(委員) 農協も会合はしているが中々難しい、まず農地を貸す場合に半プロ的な人に農地全てを貸して農業をやして下さい。というのは権利関係が難しいし、それでされる人が採算が合うのかどうか、一般市民に対して農地を開放して貸農園をして、自分のところの自家消費分を作ったらどうかという形で組合員に話すと、一般市民には中々貸出ししにくい、今、農業やおられる方で駐車場が非常に増えてきた。駐車場に対して車が入っているのかどうか、場所の悪い所は車が入らないで難儀している。そうなら貸農園にしたらと考えるが、借りる方が固定資産税を上回る様な賃料を払えば可能ですが、農家といえども固定資産税の負担という課題がある。事業として貸すとなれば、借りる方がそこまで負担出来るか、また、市の方で固定資産税ある程度免除しましょ、という様な形のマッチングなら市民に対しての貸農園は可能となるが、今の農地がどんどん余っているのは、農家の方も色々模索しながら考えて、手つかずのままになっているのは非常に勿体無いと思う。人に貸す訳にもいかず自分でしても中々上手くいかない、ガンジガラメで形だけの農地、休耕地多い。そこに農協としては受託事業として農作業のお手伝いはしているが、下手すれば作るというよりも、耕運機使といてという位で 1 年間遊ばしている。という方が、税金安い。そういう形で農業やってお金儲けならされるが、お金儲けならなら、しませんよね

(委員) 固定資産税かかっていることを知っていて、借りたい人たちもいる。前回の時に都市型の農家のところは 30～40 万の固定資産税がかかるとおっしゃったので、私はグループで話なんです。そしたらグループでもって固定資産税相当分をお支払いする中で貸してくれればいいのにな、という話もあるんですが

(委員) 固定資産税以上、上回ればいいんですが

(委員) 自分達は商売でやろうとしている訳ではないので

(委員) 商売ではなくて、貸す側は損してまで貸せない、せめて税金を上回る分は得たいという気持ち。例えば車 10 台で 1 台 1 万円入れれば固定資産税年間 50 万円としたら 60 万円浮くので、それならやろうかという人がいるが、トントンならどうか、そこに権利関係も発生する。(発生しないで) 農地の貸借ならどうなのか、その辺の整備があります。小作農地にならないと思うが、そういう事まで整理して、ある程度潤う益があるなら可能でしょうね。全くプラス 1 マイナス 1 では資産価値見出す人は少ないでしょうね。その辺の認識を変えていったら、可能かなと思いますね

(委員) そうなると借りる方はいないでしょうね

(委員) そうでしょう

(委員) ということは、遊ばして固定資産税を今は駐車場で収入得る話されていますけど、何もしない休耕地で置いている場合は

(委員) だから、そこにモノを建てたりされる訳です。宅地化にドンドンなっていく訳です。本来は農業したい、駐車場をやってみた、あんまり車が入らない固定資産税は毎年かかってくる、農協にこの土地何とか運用出来ませんか、それならアパートでも建てますかという話になってくる。持っているのがシンドイ、農地のままで市民の方に借りてもらって、例え 30～40 万でも固定資産税上回るのであればこのまま貸して辛抱しようか、という人もなきにあらざだが、そういう金銭的な感覚があるので、その辺をクリア出来れば、モノを建てるより農地として運営出来るならやっていきたいというのはある。その辺が中々難しい、だから例えば土地を生産緑地、納税猶予農地から宅地化した、駐車場やってみたところ入らない、なら農家さんも土地持ちさんも辺鄙な土地に対して借金して物件を建ててしまった、結局それも入らずじまいで売ってしまわないといけない。そういうので泣いている農家も沢山ある。いかにお互いが満足出来るものに、利益得るような形に考えていくのが中々難しい。都市農家は地方と全く違いますので

(委員) 直売所の話でも地方へ行って、広い道の駅があって、そういう所で農家の方が補助金・助成金とかがあって成り立っているが、都市農業の東大阪でそういう運営が出来るのかというと厳しい話。地方では、おはぎ作ったり加工品作りに出てきて、農業している奥さん方活動されるが、東大阪で農業されてる奥さん方は殆どそういう人はいない。難しい話だとは思っている。やっていただけるものなら、やっていただいいていいと思う

が、厳しいものもある

(委員) 確かに法的な制限・制約については以前事務局の方でまとめていただいて、そういったシバリがあって中々活用出来ないというお話はさせていただいた。事務局よりも1点の別紙1の表になっている資料の説明をしていただけたら

【事務局】農家の方で貸農園される場合はパターンが3つありますよということで、市民農園整備促進法に基づくもので、休憩所・トイレとか付帯設備など整備運営計画を作って整備されるもの。特定農地貸付法は市町村などの運営者と貸付協定を結んでいくやり方。農園利用方式は農家が運営する農園を使っていただくもので、農地は、宅地化農地、生産緑地、相続税納税猶予のケース等色々あるが、市民農園整備促進法、特定農地貸付法では生産緑地、相続税納税猶予申請農地ではほぼ受けられないことになると考えています。参考として添付している

(委員) 東大阪の農地に関わってはこれに準ずる施設はあまりないですか

【事務局】公に利用権設定・市民農園という形で使っておられる所はないのではないかと思います。殆どは農園利用方式と思う

(委員) 農業委員の立場から言うと、市民農園開設方法3点あるが、別紙1裏面に具体的に説明されているが、現に東大阪でも市民農園、福祉農園と、名称は違っても生産緑地で市民農園に貸しておられる農地もある。私は長瀬地区ですので、長瀬地区でもそういう貸付けている農地ある。それとまた、生産緑地以外の宅地化農地というところで福祉農園として利用されている農園もある。利用されている方も、若い時に農業されて都会に出てきて、またやり出すという方もかなりおられる。市が窓口になっている福祉農園借りられる。個人で借りられるのも若干あるが、JAが窓口になっている農園もある。福祉農園については以前、10㎡、1年契約で、農政懇談会の時代に話したが、野菜づくりはまず、土づくりから始めて、1年で変更となる場合もある。JAさんで貸しておられる所では長瀬地区では20㎡位である。

(委員) 貴重なご意見や、他市の状況も聞かせていただいたが、私の意見としては子供たちに関しては、今でもご尽力賜っているが、グリーン農協さん、中河内農協さんに小学生の農業体験でお世話になっています。出来れば続けていってもらいたい。なおかつ全54小学校という訳にはいかないで、少しでも増やしていただければと思う。あと、学校給食への食材の納入というお話あったが、給食課の方のご意見とかですと、やはり学校給食になると単一食材を一定量必ずその日に納めないといけない、この辺がムズカシイ所があって、作ってはいるんだけどそれを学校給食に供するというのは、その量に達しないという農家さんや、葉っぱもんでいうと日持ちの加減があるのでどうしてもイモとか根菜系になってしまうとかの話聞いたことある。今、東大阪の農家で学校給食にお手伝いされておられる農家さんは何件くらいなのでしょう

【事務局】中河内農協・孔舎衛で多分4～5件かと思いますが

(委員) 学校へ個人で納入されることはないと思う

【事務局】学校給食の方から、じゃがいもでも男爵はダメ、メークイーンでという指定がありますので、中々直売所でメークイーンはそんなに売れない、そのためだけに作らないといけないという所で、料理する方とのマッチングも中々難しいとは生産者から聞いている

(委員) 定期的に(納入)という訳にもいかないみたいです。本当に食農体験の一貫としての食材という時もある

(委員) スポットで頼まれて提供される時はあるが、年間計画を立てて、それだけの量を納入するのは都市部では揃わないです

(委員) その辺もあるでしょうね

(委員) 米も入れてますけど、どうしても入札になるので業者は安い米をひっばってくる。地場もんを使いたい時のスポット位ならどうにか入れられる農家もあるが

(委員) 子供たちが近所で出来た野菜なんだと、分かってもらったらいいと思う

(委員) 今日の事務局の方で作成してもらった本市における農業施策について、この部分が課題であろうということで、休耕地対策の辺でお話をいただいて中々難しい所があるというのが、お話を聞かせていただいた実感でした

(委員) 都市近郊農業の実情が詳しく分かってきました。これからも勉強を続けながら新しい素案があれば伝えていきたいと思います

(委員) 私の思いつきですが、事務局の方から中小企業振興会議に関わるスケジュールの話があって3月、5月あたり部会開催して振興会議に臨んで、という所なんですけど、1点、私自身が東大阪の農業の実態というものがあまり分かっていないという所もありますので、事務局に話して東大阪市内の主要な、どういった所を視察するかというのは別として、委員の方々に一度、東大阪の農地なり農業の実態みたいなものを半日かけて回らしていただくのもひとつかなと、机上の上での話ばかりでなく、実際面を少し、農協の委員の方々はもう当然至極の事かとは思いますが、それ以外の委員の方々も、事務局として考えていただく事になるが、視察みたいなものをしてはどうかと思しますので、次回よろしくお願ひします

【事務局】次回は部会長の提案を受けまして、3月の午後の時間帯で市内農地の見学ツアーの形の取組みをさせていただきたいと思ひます

【閉会】